

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3191400146		
法人名	社会福祉法人 中部福祉会		
事業所名	はわいグループホームあずま園		
所在地	鳥取県東伯郡湯梨浜町光吉107-35		
自己評価作成日	平成28年9月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 未来		
所在地	鳥取県倉吉市東仲町2571番地		
訪問調査日	平成28年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

はわいこども園が隣接しているため、園児達が園庭で遊んでいる姿を見たり、散歩中に会話を交わしたりすることで毎日元気をもらっています。また、納涼祭や運動会に招待して頂いたりして交流を深めています。  
園庭には畑を作り、畑仕事をずっとされてきた利用者様からアドバイスを頂きながら、いろんな作物を植えております。水やりをしたり、野菜を育てたり収穫する楽しみを味わって頂いたり、収穫した野菜を、食事づくりで使用することで食べる喜びも感じて頂いています。  
週に1回の外出日には、利用者の皆様が慣れ親しんだ場所や、四季の特性を感じられるような場所へと案内させて頂くようにしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・木の香りと温もりのある平屋建てのホームであり、テラスと渡り廊下をユニット間で自由に行き来して交流を図っている。
- ・ホーム独自の運営理念策定に全職員で着手して今年8月に完成し、現在はその共有に努めている。
- ・民生委員から地区運動会や納涼祭の誘いを受けて参加につながるなど、地域との連携が深まった。
- ・馴染みの場所や知人を記入した個別のマップを作成し、教会や商店などへの外出を支援している。
- ・希望により同性職員による入浴介助や、就寝前入浴を行っている。
- ・医療職と連携し、メドマーや歩行リハビリに積極的に取り組んでいる。
- ・職員の意見反映に努め、勤務時間など就業環境に配慮し、離職防止につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

★ 努力している点

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の運営理念を元にはわいグループホーム独自の運営理念を全職員で検討を重ね、ようやく作成することができたばかりです。今後この理念を支援に生かしていきたいと思えます。	★グループホーム独自の運営理念策定に全職員で着手し、今年8月に作成することができた。朝の申し送り時2ユニット合同で唱和し、共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りや運動会、こども園の行事に参加して日常的に交流を図っています。ボランティア公演で来園された老人クラブの方を納涼祭や収穫祭に招待するなどイベント時には交流を深めるようにしております。	★今年初めて地区の運動会への呼びかけがあり参加することができた。また、隣接しているこども園とは日常的に交流が行われている。歌、フラダンス、散髪等のボランティアを定期的に受け入れ、行事に招待するなど、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての理解を深めて頂くためにも地域に開かれた施設づくりを目指しています。日赤奉仕団の方や鳥取短大の学生が視察見学に、また夏休みには中学生が福祉体験学習に来られます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で頂いた意見を運営に活かせるよう努力をしております。推進委員の方から地元で夏祭りの情報を頂き、利用者様と共に参加しました。	民生委員、家族及び利用者代表、町の長寿社会課課長をメンバーに2ヶ月一回開催し、報告や意見交換をしている。民生委員から地区の運動会や納涼祭への誘いがあり、参加につながった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困ったことがあれば、すぐ町役場へ連絡し、相談をしたり指示を仰ぐようにしております。家族が家屋を処分された方について役場の方に相談した結果、施設に住民票を置いて頂くこととなりました。	町担当者とは日頃から連絡を密にとっている。家族の状況によっては生活保護の相談にのってもらうなど、困った時の協力体制ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急やむを得ない場合を除いて、身体拘束は行っておりません。行う場合には、必ず家族からの同意を得てから行います。また、継続の必要性について定期的に話し合いの場を持つようにしています。	身体拘束についての指針を示し、事業所内で研修も実施している。やむをえないことが生じた場合は家族の同意を得るようにしている。玄関も居室も施錠は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉かけ1つでも虐待になってしまうこともあるなどといったことを研修だけでなく、実際の介護の現場においてその都度指導するようしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	そのような制度があるということは知っていても深くは理解できていないのが現状です。成年後見制度を利用している利用者もいるので、勉強をしていく必要性を感じております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約にあたっては、疑問・不安な点などないか1つ1つ確認しながら丁寧に説明を行っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは普段の生活の中で、要望がないか聞き取りをしております。また、家族には面会に来られた時や電話連絡をする時に、要望等がないか確認し、出来る限り希望に添えるよう努めております。	日頃から利用者や家族の要望を聞く体制にしている。主に面会時や電話連絡の際に意見の把握に努めている。意見箱は設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談やアンケートを行い、職員から意見・提案を聞き取るようにしております。それ以外にも必要に応じて話し合いの場を設けるようにしております。	★無記名式のアンケートを行ったり、個人面談を行い、また日頃から職員とコミュニケーションを図るよう心掛け、意見を言いやすい雰囲気作りをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の家庭事情をふまえ、勤務時間を考慮するようにしております。職員1人ひとりが、自分は職場にとってなくてはならない存在だと感じてもらえるように役割分担をしております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度、全職員が知識を深める場として施設内研修を実施しております。また県社協など施設外の研修の情報を提供し、個々のレベルや興味に合わせて参加してもらえるよう呼びかけております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム間での相互研修に参加することで、当施設にはないよい点を勉強させて頂き取り入れるようにしております。また法人内の他施設での勉強会にも参加しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者に不安な様子が見られたら、心配事がないか尋ねるようにしております。また、どうして不安なのか自分では理解や表現できない利用者に対しては寄り添ったり、馴染みの物を手渡して落ち着いて頂くようにしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者が施設で生活を送るにあたって、不安に感じていることや疑問に思うこと、またどのように過ごしてもらいたいかなど希望などについて尋ねるようにしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	原則として半年に1度支援計画の見直しを行うことになってはいますが、新しく入居された方については、事前収集した情報と異なる場合もあるので、もう少し短い期間で見直すようにしております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自発的に行動出来なくなった方に対しても1つ1つ声かけをすることで、出来ることは自分でして頂くようにしております。洗濯物を干したり、たたんだり、食事の下ごしらえなどといった家事は一緒に行っております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院や理美容院通いなどは、可能な限り入所前と同じように、家族で対応して頂くことで家族と一緒に過ごす時間を持って頂くようにお願いしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前仕事に通っておられた場所や買い物に行っておられた店などに外出日を利用して出かけるようにしております。また馴染みの牛乳屋さんをお願いして、定期的に配達して頂いています。	★馴染みの場所や人を記入した個別のマップを作成している。教会や商店、以前の勤務場所周辺への外出を支援しており、家族の協力も得られている。また、家族の希望もあり、馴染みの牛乳屋さんに配達を依頼し、利用者は届くのを楽しみにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はなるべく皆様一緒に過ごして頂くために、部屋で一人おられる方にはリビングへお誘いするようにしております。利用者同士の相性もあるので座席配置には配慮しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	諸事情で退所されることになった方に対して、次の落ち着き先が決まるまでいろいろ情報を提供したり、家族と相談をしたり、誠意を持って対応させて頂いております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まずは利用者本人からどのように暮らしていきたいかを聞き取るようにしております。困難な方に対しては、家族からこれまでの生活歴や趣味趣向を聞き取り、本人に確認しながら検討しております。	★6か月に一回「私の姿と気持ちシート」で聞き取りをし、日々の思いや暮らし方の希望の把握に努めている。自分から意思を伝えづらい利用者からは表情の変化や笑顔などの反応で把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には聞き取れなかったことも、日を重ねていくうちに、これまでの暮らしについて話をされる方もおられます。そこで得た情報を全職員で共有し、日々の支援に活かすようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活パターンや心身状態、有する力等について変化があれば、連絡ノート等を活用することで常に新しい情報を共有できるような体制を作っております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりの支援計画に基づいて支援を行うことが出来ているか、毎日振り返るようにしております。月に1度、このまま継続でよいのか新たなケアが必要なのか話し合う場を持つようにしております。	毎日、モニタリング表に基づき支援内容を確認している。そして月1回の振り返りと、半年に1回は利用者・家族・関係者が集まり、介護計画の見直しや意見交換をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に「支援記録」に記入しております。変わった様子があったり、印象的な発言をされた場合には記録に残すようにしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	健康によいと言われている「笑いヨガ」や、心を和ませる音楽療法の他、平行棒や歩行器を使用して歩行訓練なども行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度地区の夏祭りに参加したところ、運動会にも初めて招待を頂きました。隣のこども園からも交流のお誘いの声がかかり、少しずつ繋がりが出来つつあるところです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの病院に通っておられる方もあれば、往診医の診察を受けられる方もあります。家族が受診に付き添うのが困難な場合には、職員が同伴させて頂いております。	2か所の往診医の診察を受けている。また、かかりつけ医への通院は基本的には家族の支援を受けているが、救急や付き添い困難な場合は職員が行っている。往診受診ノートに特記をまとめ、情報共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝の申し送り時だけではなく、利用者に小さくても異変が見られたら直ちに報告し、指示を仰ぐようにしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、なるべく施設と同じ状況で過ごして頂けるよう介護・看護アセスメント情報を速やかに提出するようにしております。また入院中も病院の連携室と退院に向けて細目に連絡を取り合うようにしております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の契約説明時には看取りについても説明させて頂くようにしております。利用者の状態変化に合わせて、主治医を交えて今後の方針について話し合う場を設け、最終的には家族の意向を尊重するようにしております。	入所時には看取りについて説明しているが、家族には把握しづらい場面も多い。同法人の他施設で開催された看取りの勉強会に参加したが、ホーム独自の指針やマニュアルは作成していない。	今後は看取りの指針を示し、それに基づき双方がより具体的に理解が深まることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時に備えて、救急対応の訓練を毎年行うようにしております。消防署主催の救急法講習にも交替で参加し、蘇生法について学ぶ機会を持つようにしております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常時の避難先や避難ルートを掲示することで職員に周知しております。年に2回消防訓練を利用者と一緒にを行い、避難方法を身につけるようにしております。	年2回の消防訓練を実施しており、今年度末には夜間想定訓練を計画している。避難場所は隣接することも園、あるいはアロハホールとなっている。ホームが民家からは離れており、地域の協力は困難である。	アロハホールへは避難訓練を兼ね、通常より長い距離の散歩や外出など試みてはどうか。また、地域の協力について運営推進会議へ提案してはどうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時にはプライバシーの確保の徹底のため守秘義務について説明をし、サインをもらっています。また人権意識を高めるために認知症に関する施設内研修も実施しています。	日常ケアの中で、一人ひとりのさりげない表情や行動から利用者の意思を尊重できるように努めている。尊重したかわりについての職員研修を継続して実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に添えるよう、日々の生活の中で発する言葉に気を配るようにしております。また職員が押し付けるのではなく、自己決定できるよう働きかけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの利用者に対して、ケアプランを元に本人のペースに合わせた支援を行っております。また利用者が外出を希望された時には、出来る限り対応するようにしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴などの更衣の際には、利用者に服を選んで頂くようにしております。 髭剃りや爪切り・耳掃除については、出来る範囲で自分で頂き、出来ない部分について支援を行うようにしております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬のものを味わって頂くよう心がけております。年に2回嗜好調査アンケートを実施し、なるべく利用者の希望に沿えるよう努めております。準備・片付け等は、職員と一緒に行って頂いております。	平日の昼食及び夕食は、併設の厨房で調理したものを、利用者と職員と一緒に盛り付け配膳している。日曜日はホーム独自で利用者の好みを考慮した食事を作っている。	利用者と職員が食卓を囲んで、和やかな食事がとれるよう、さらに期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えながら野菜を中心とした食事作りをしております。糖尿病など食事制限のある利用者には摂取量を減らしたり、嚥下状態に合わせて食事形態も変えるようにしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケアをして頂いております。自分で出来る方には声かけ・見守りを行い、必要な方には介助を行うようにしております。希望があれば歯科医の往診を受けることもできます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要な方についてはトイレの声かけをするようにしております。検討をしながら出来る限り布パンツをはいて頂くように努めております。	利用者個人の排泄パターンを把握し、サインやタイミングを見計らって一人ひとりに応じた案内や排泄支援を行っている。利用者によっては、日中と夜間でパンツとパッドを使い分け、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体を動かしたり、水分をしっかり摂って頂くことで、なるべく自然排便ができるようにしております。利用者の状態を見ながら腹部マッサージも行うようにしております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	女性職員の対応を希望される利用者については、女性職員が対応するなど、利用者の希望に沿って入浴して頂いています。就寝前に入浴を希望される方がおられるので、夜間入浴も実施しております。	★利用者の体調や希望に応じた入浴支援をするよう心掛けている。希望により同性職員による入浴介助を行ったり、月1回就寝前入浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に安眠できるよう、日中にしっかりと活動してもらえよう支援をしております。帰宅願望が強くなったり不穏になられた時には、落ち着かれるまで利用者に寄り添うようにしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的・重要性について職員は理解し、最新の注意を図りながら服薬にあたっています。ユニット内に薬の一覧表を置き、いつでも確認できるようにしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備をしたり、新聞を取りに行ったりと一人ひとりの生活歴を考慮しながら、いろいろな役割を担って頂くようにしております。また歌やゲームを取り入れることで、気分転換をして頂いております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰りたいたい時には帰れるようにと、家族から自宅の鍵を預らせて頂き、希望する時にお連れするようにしております。買い物に出かけたい利用者があれば、一緒に出かけるようにしております。	利用者の希望を取り入れて、ドライブや買い物、図書館、教会等一人ひとりの行きたいところに外出し、楽しみを持ってもらえるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を自己管理している利用者はおられませんが、何か購入したいという希望があれば、職員と一緒に買い物に出かけ、立替払いするようにしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人との電話や手紙のやりとりは、自由にして頂いております。 本人が希望すれば、電話を使用して頂くようにしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりのよい渡り廊下に設置したソファに座り、日向ぼっこを楽しめます。リビングではテレビを見たり、音楽を聞かれたり、読書をされたりと利用者一人ひとりのペースでゆったりとくつろいで過ごされています。	★採光の工夫された天井の高い平屋建てのホームで、日当たりのよいテラスと渡り廊下をユニット間で自由に行き来している。居間では、一人ひとりが自由に生活していて、壁には利用者が作成した飾りやぬりえ、ミニ生け花がたくさん飾ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで一人横になられる方もあれば、並んで座って会話を楽しまれたり、利用者一人ひとりが自分のペースで過ごされています。リビングではいつも同じ席に座ることで、安心して過ごして頂いております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所にあたって、新しいものを購入したりせず、家で使い慣れた家具や使用していた物品を持って来て頂くようお願いしております。そうすることで家にいるような気持ちで過ごして頂いております。	居室には使い慣れた筆筒や衣装ケース、ソファ、時計、写真等を置き、居心地よく過ごせる工夫がされている。なかには位牌を置き、花の水替えをする利用者もいて、その人らしい空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安心して生活できるようバリアフリー設計となっております。トイレや浴室は車椅子の方でもゆっくりと使用できるよう広く設計され自立した生活が送れるようにしております。		

## 目標達成計画

作成日: 平成 28 年 11 月 7 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	(13)	アロハホールへは避難訓練を兼ね、通常より長い距離の散歩や外出など試みてはどうか。また、地域の協力について運営推進会議へ提案してはどうか。	アロハホールまでの避難を含めた訓練を実施する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物から外へ出るだけでなく、実際に避難場所であるアロハホールまで行ってみる</li> <li>・役場の災害担当の方と緊急時の対応について話し合う機会を持つ</li> <li>・運営推進会議で、区長様や民生委員に緊急時には協力して頂けるよう再度お願いする</li> </ul>	12か月
2	(15)	利用者と職員が食卓を囲んで、和やかな食事がとれるよう、さらに期待する。	利用者と楽しみながら食事をとる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の時は、料理について会話をしたり、季節を感じてもらえるような話題を提供しながら食事を楽しんでもらえるような雰囲気づくりをする</li> </ul>	12か月
3	(12)	今後は看取りの指針を示し、それに基づき双方がより具体的に理解が深まることを期待する。	はわいあずま園独自の看取りの指針を作成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他施設の看取り指針を参考にしながら、はわいあずま園独自の指針を作成し、入所説明時、家族に提示しながら施設での看取りという選択肢もあることを伝える。</li> </ul>	12か月
4	(13)				
5	(15)				

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。